

排膿することもある。爪根部から変形をきたすことがある。難治性であり、有効な抗真菌薬を用いても治癒までに数か月を要し、再発しやすい。

#### 4. 爪カンジダ症 **candidal onychomycosis**

同義語：nail candidiasis

爪<sup>そうこう</sup>甲の肥厚や変形、崩壊を呈する。臨床的には爪白癬と区別できないため、確定診断には真菌培養が必要である。

#### 5. 口腔カンジダ症 **oral candidiasis**

鵝口瘡（thrush）ともいう。口腔粘膜あるいは舌に白色の偽膜や白苔が付着し、炎症性潮紅を伴うことがある。灼熱感や味覚の消失を伴い、偽膜を剥がすとびらん局面を形成し疼痛をきたす。新生児で産道感染として生じることが多く、1～2週間で自然治癒する。成人の口腔カンジダ症では糖尿病や免疫不全などの基礎疾患を有していることが多い。AIDSの初期症状としても重要である。

#### 6. 性器カンジダ症 **genital candidiasis** (**candidal vulvovaginitis, candidal balanitis**)

健常女性の75%で一度は経験される。陰および外陰部に、びまん性の発赤と白苔形成を認め、白色の帯下がみられる（**図 25.16**）。妊婦や糖尿病の成人女性で悪化、慢性化しやすい。男性では亀頭や包皮などに発赤と鱗屑を形成する。STIとしての側面ももつ。

#### 7. 慢性皮膚粘膜カンジダ症 **chronic mucocutaneous candidiasis ; CMC**

内分泌異常などを背景にして、幼少時から皮膚および粘膜にカンジダ症が出現し、慢性に経過する。一部は常染色体劣性ないし優性遺伝をとり、カンジダに対する免疫を担うTh17に関連する遺伝子（*IL17RA, IL17F, STAT1* など）の変異が報告されている。皮膚病変は多発し、過角化を伴い厚い<sup>かひ</sup>痂皮を形成する傾向が強い。病理組織学的に肉芽腫を形成することもある〔カンジダ性肉芽腫（*candidal granuloma*）〕。成人発症例では胸腺腫やAIDSの合併を考慮する。治療抵抗性であり、抗真菌薬の内服や点滴静注を用いるが、再発を繰り返す。

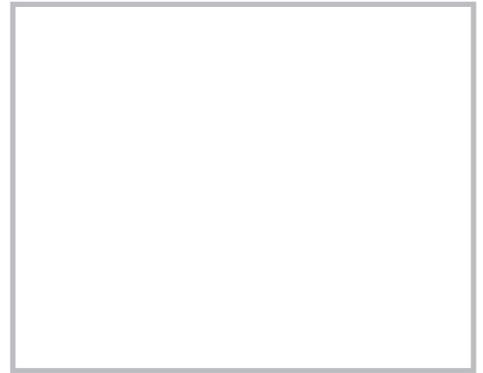


図 25.16 性器カンジダ症（genital candidiasis）

黒毛舌  
[(black) hairy tongue]

MEMO 

